



鳥取県湯梨浜町

町長 宮脇 正道

住みやすく
魅力と活気あふれる
愛のまち

資料9

令和6年10月25日(金)

令和6年度地域・職域連携推進関係者会議

令和6年度

地域・職域連携推進関係者会議

湯梨浜町の概要

鳥取県のほぼ中央に位置。平成16（2004）年10月1日に、羽合町、泊村、東郷町が合併して誕生。

- 【人口】 16,055人（令和2年国勢調査）
- 【面積】 77.93km²（東西：11.3km 南北：11.6km）
- 【主な産業】
 - ▽農業（梨、ブドウ、イチゴ、ほうれん草など）
 - ▽水産業（アジ、ハマチ、タイ、白イカ、シジミ、岩ガキ、サザエ、ワカメなど）
 - ▽観光業（はわい温泉・東郷温泉など）



湯梨浜町の概要

平均寿命・平均自立期間

		平均寿命		平均自立期間		平均寿命と平均自立期間の差	
		R元	R5	R元	R5	R元	R5
男性	全 国	80.8歳	81.5歳	79.6歳	80.0歳	1.2歳	1.5歳
	鳥 取 県	80.2歳	81.4歳	78.6歳	79.6歳	1.6歳	1.8歳
	湯 梨 浜 町	79.9歳	80.7歳	77.7歳	78.1歳	2.2歳	2.6歳
女性	全 国	87.0歳	87.6歳	84.0歳	84.3歳	3.0歳	3.3歳
	鳥 取 県	87.3歳	87.9歳	83.9歳	84.6歳	3.4歳	3.3歳
	湯 梨 浜 町	86.9歳	87.3歳	84.1歳	83.1歳	2.8歳	4.2歳

【第3期湯梨浜町保健事業実施計画（データヘルス計画）】

平均自立期間：日常生活動作が自立している期間の平均
 平均自立期間=「平均寿命」-「介護保険の要介護2以上の期間」

- 男性の平均寿命・平均自立期間は、令和元年度に比べて伸びている。
- 女性の平均寿命は、令和元年度に比べて伸びているが、平均自立期間は1歳短くなっている。
- 平均寿命から平均自立期間を引いた男性の不健康期間は、令和元年度で2.2歳、令和5年度で2.6歳、女性の不健康期間は、令和元年度で2.8歳、令和5年度で4.2歳と男女ともに伸びている。



第4次健康ゆりはま21概要

- 令和6年度から令和11年度までの6カ年計画。令和8年度に中間評価と見直しを、令和11年度に最終評価を行う。
- 健康増進法第8条第2項の規定に基づく市町村健康増進計画であり、町民の健康水準の向上を目指す保健分野の具体的な行動計画。

第4次健康ゆりはま21の目標と取り組み

I 日常生活における生活習慣病の予防

- (1) 栄養・食生活 (2) 身体活動・運動 (3) こころの健康 (4) 喫煙 (5) 飲酒 (6) 歯・口腔の健康

II 生活習慣病の早期発見と重症化予防

- (7) 糖尿病 (8) がん

III 生活機能の維持・向上

- (9) フレイル予防

- 本計画の「栄養・食生活」分野を食育基本法第18条の規定に基づく市町村食育推進計画として、「休養・睡眠」分野を自殺対策基本法第13条第2項の規定に基づく市町村自殺対策計画として位置付ける。

推進体制

- 町民と県、町の行政機関のほか、家庭・地域・学校・職場・保健医療の専門家・各種関係団体等が連携を図り、継続的かつ協調のとれた取り組みを推進する。



市町村国保と全国健康保険協会が共同して進める健康づくりモデル事業

概要・目的

- 地域住民の生涯を通じた健康づくりの観点から、保険者の枠組みを超えて市町村と全国健康保険協会（協会けんぽ）が連携し、地域住民を対象とした特定健診及び特定保健指導を実施し、実施率の向上、さらには健康寿命の延伸につなげる。
- 住民全体の健康増進と国保及び被用者保険の枠を超え、生涯を通じた医療費適正化に資することを目的とする。
- 事業実施期間は、令和5年度から令和6年度の2カ年で実施する。

具体的な取り組み

I ハイリスクアプローチ

- ◆協会けんぽ被扶養者を対象とする特定保健指導の利用勧奨及び指導を実施する。

II ポピュレーションアプローチ

- ◆地域住民を対象とする生活習慣病予防・健康づくり事業のあり方を検討、実施する。

III 地域・職域連携推進会議を組織

- ◆健康・医療データの集計・分析、モデル地域の医療関係団体等を巻き込んだ一体的な取り組みを実施する。



事業のねらい

- I 市町村・国保中央会・国保連合会・全国健康保険協会（協会けんぽ）間の協力連携。
- II 事業の効果的・効率的な運営内容・方法、課題への対応方策の検討。
- III 市町村・国保中央会・国保連合会・全国健康保険協会（協会けんぽ）が連携した効果的なデータ活用のあり方を検討。
- IV 中長期的な効果検証のあり方を検討。
- V 地域の生活習慣病予防・健康づくり活動への貢献。

市町村国保と全国健康保険協会が共同して進める健康づくりモデル事業

モデル市町の選定

○モデル事業を実施する地域の選定にあたっては、早期の段階から生活習慣病の発症予防や重症化予防を行うことにより、元気に働き続けることができる人を増やし、社会的経済的損失を抑える観点で、全国健康保険協会（協会けんぽ）及び国保に共通する要素として、①高医療費、②特定の疾病の罹患率が高い、③健康医療データの活用基盤がある、などの地域の実情を踏まえた検討がなされた。

湯梨浜町の選定理由

○保険者協議会中央連絡会において、データの利活用を含む先進的な事例が紹介された鳥取県から、人口・被保険者規模や取り組み状況等をもとに湯梨浜町が選定されるに至った。

- ◆県内で最も人口規模が大きな町であり、全国健康保険協会（協会けんぽ）の加入事業所も多く、対象者となる被扶養者も多い。
- ◆全国健康保険協会（協会けんぽ）被扶養者の特定保健指導利用率が低く、モデル事業を通じて被扶養者の特定保健指導の利用を掘り起こせる可能性が高い。
- ◆ゆりはまヘルシークラブ（※）等の地域資源を通じて、既に全国健康保険協会（協会けんぽ）加入事業所との連携がなされている。

【市町村国保と全国健康保険協会（協会けんぽ）が共同して進める健康づくりモデル事業中間報告（令和5年度）より】



市町村国保と全国健康保険協会が共同して進める健康づくりモデル事業

期待される効果

○国保サイドの効果

- ◆早期の保健指導により、国保・後期加入前の重症化予防。
- ◆長期を見定めた国保保険料や医療費の低減。

○全国健康保険協会（協会けんぽ）サイドの効果

- ◆低迷する被扶養者の保健指導実施率の向上。
- ◆地域資源を活用することによる被扶養者の健康意識の向上・健康づくりの推進。



➔ 医療費の適正化・健康寿命の延伸

○被用者保険と地域保険が連携した予防・健康づくり活動の枠組みづくりを検討する。

○地域住民全体の健康度の向上に向けた施策の全国展開の可能性を検討する。



市町村国保と全国健康保険協会が共同して進める健康づくりモデル事業

令和5年度の取り組み状況

I ハイリスクアプローチ

- ◆特定保健指導の利用勧奨。
- ◆特定保健指導の実施。

※全国健康保険協会（協会けんぽ）からの提供リストに基づき、保健指導対象者に対して訪問等により利用勧奨、保健指導を実施。

【実施体制】

正職員の保健師3名、会計年度任用職員の保健師1名、会計年度任用職員の管理栄養士1名の5名を中心に、他業務との併任によりその対応を図っている。

【現段階の実施効果】

- 健診結果で受診勧奨値の対象者を受療行動につなぐことができた。
- 特定保健指導の機会を持てたことで、対象者ご自身が生活の振り返りができた。

II ポピュレーションアプローチ

- ◆地域・職域連携推進会議

※職能団体、商工会などが参加し、各団体の健康施策の取り組み状況や健康課題について情報共有。

- ◆全国健康保険協会（協会けんぽ）加入企業の健康づくりイベントに参加

※湯梨浜町・国保連合会の保健師による健康相談・血管年齢等測定会を実施。



- ◆全国健康保険協会（協会けんぽ）や関係機関と共同した健康づくり事業

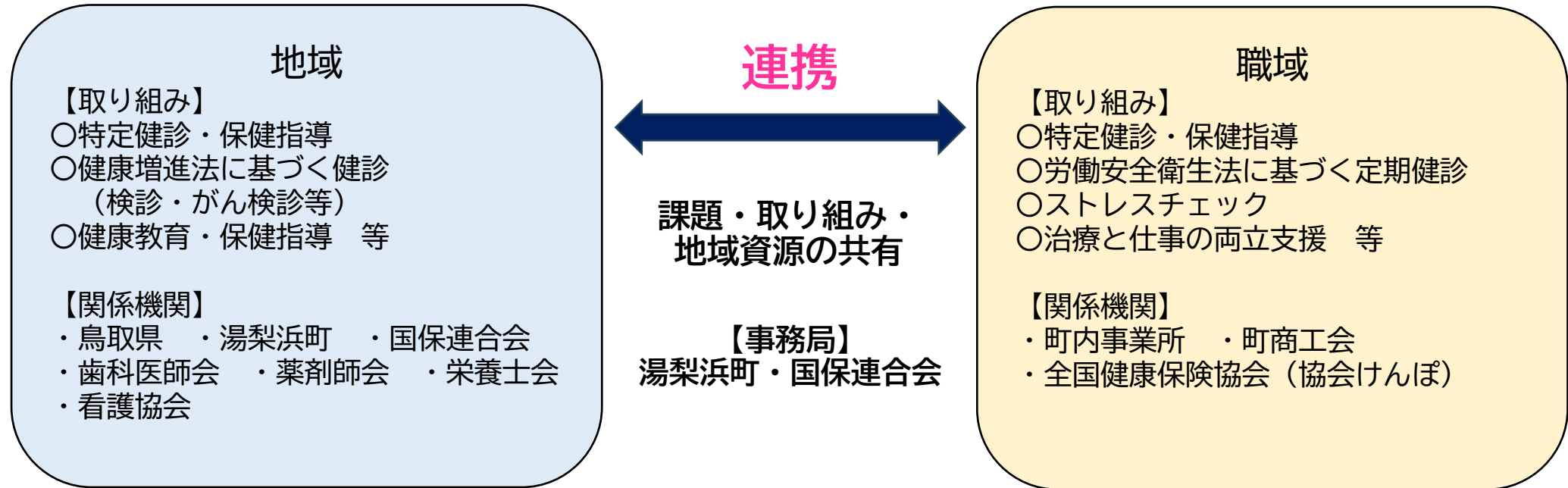
※健康づくり事業のPRチラシを作成。

地域・職域連携推進会議

概要・目的

○湯梨浜町における地域保健と職域保健を担う組織の連携により、保健事業の実施に要する地域資源を最大限活用し、生涯を通じた継続的な保健サービスの提供体制を整備する。もって、働き盛り層の生活習慣病等の予防と健康寿命の延伸を図る。

地域・職域連携推進会議（イメージ）



※保健医療資源の相互活用や保健事業の共同実施など、連携体制の構築を検討する。

地域・職域連携推進会議

地域・職域連携のメリット

○効果的・効率的な保健事業の実施

- (1) 地域及び職域が保有する健康に関する情報を共有・活用することにより、地域全体の健康課題をより明確に把握することが可能となる。
- (2) 地域・職域で提供する保健サービスの方向性の一致を図ることが可能となる。
- (3) 働き方の変化やライフイベント等に柔軟に対応できる体制の構築により、生涯を通じた継続的な健康支援を実施することが可能となる。
- (4) 小規模事業場（自営業等含む）等へのアプローチが可能となり、労働者の健康保持増進が図られる。



○PDCAサイクルに基づいた具体的な取り組み

- (1) 現状分析
- (2) 課題の明確化、目標設定
- (3) 連携事業のリストアップ
- (4) 連携内容の決定及び提案
- (5) 連携内容の具体化・実施計画の作成
- (6) 効果指標並びに評価方法の設定



○目指すところ

健康寿命の延伸・生産性の向上・医療費の適正化



地域・職域連携推進会議

令和6年度の取り組み

○市町村国保と全国健康保険協会（協会けんぽ）が共同して進める健康づくりモデル事業懇談会

令和6年5月21日に懇談会を実施し、全国健康保険協会（協会けんぽ）本部、鳥取支部、国民健康保険中央会、鳥取県国民健康保険団体連合会、湯梨浜町で、事業の状況報告と今後のさらなる事業推進に向けた意見交換を実施。

○全国健康保険協会（協会けんぽ）被扶養者を対象にした特定保健指導

令和5年度に引き続き、全国健康保険協会（協会けんぽ）被扶養者を対象にした特定保健指導の受診勧奨、特定保健指導を実施。

○地域と職域が連携した健康づくりの普及啓発・保健事業の実施

- ◆地域・職域が連携した健康づくりの地域住民への広報活動
- ◆地域・職域での健康測定・健康セミナーの開催（※）
- ◆地域の健康イベント（ねんりんピック交流大会ほか）での健康啓発
- ◆20代から30代の若年層を対象にした健康啓発に係る取り組みの検討



※町内事業所での健康セミナー

令和6年4月25日、鳥取県栄養士会の管理栄養士による講演と運動講師による健康セミナーを全従業員（約200人）を対象に実施。

※湯梨浜町商工会理事会を通じた情報発信

令和6年6月12日、肌年齢、血管年齢測定のほか、データ分析結果を用いたアプリ（とっとり健康プラス）での特定健診受診勧奨を実施。



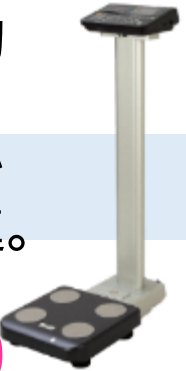
ゆりはま**食**と**健康**の まちづくり事業に関する協定

平成30年10月、湯梨浜町・(株)タニタヘルスリンク・鳥取県の3者で締結。食と運動の両面から健康づくりを推進し、生活習慣病の予防や重症化予防を図ることで、健康寿命の延伸を目指す。



運動 健康プログラムの導入

歩数や消費カロリーを測定できる活動量計の貸与、体組成や血圧の測定スポットを設置し「はかる・わかる・かわる」のサイクルで健康づくりを推進。「ゆりはまヘルシーくらぶ」事業として平成31年1月より始動。現在約1,220人が参加。



食事 健康メニューの開発

町内飲食店の協力のもと、(株)タニタの監修を受けたオリジナルメニューを開発・提供。低カロリーや減塩等に配慮した健康メニューを現在4店舗で展開中。

食と運動による健康づくり

事業の経過

- 2018（平成30）年10月12日、湯梨浜町・（株）タニタヘルスリンク・鳥取県が「ゆりはま食と健康のまちづくり事業に関する協定」を締結。
- 2018（平成30）年11月12日、Smart Wellness City首長研究会に加盟100自治体目として加盟。
- 2018（平成30）年11月10日、国保連合会主催の「健康づくりセッション2018」を皮切りに、健康プログラム「ゆりはまヘルシーくらぶ」の募集を開始。12月16日から18日に説明会を実施し、2019（平成31）年1月1日より事業スタート。
- 2019（令和元）年7月19日、タニタ監修メニューの完成、提供開始を受け、ゆるりん館にて発表会を開催。当時、5店舗9メニュー（現在、4店舗5メニュー）。
- 2020（令和2）年4月1日より、大阪府高石市・福岡県飯塚市・奈良県田原本町と共同で「SIBを活用した飛び地型自治体連携事業」始動。
- 2023（令和5）年10月8日、連携する4自治体で「地域を変えるスポーツの力」シンポジウムを湯梨浜町にて開催。
「健幸のまちづくり」をスローガンに、子どもから高齢者までの全ての世代が、運動やスポーツへの親しみを通じ、自らの健康増進と生きがいのある生活を実現できるまちづくりを目指して、「スポーツによる健康のまちづくり共同宣言」を発表。
- 2023（令和5）年10月8日、「ゆりはまスポーツの日」、「スポーツに親しむ日」を制定。



食と運動による健康づくり

ゆりはまヘルシーくらぶ会員数推移

○令和元年度末	133人
○令和2年度末	412人（目標数 350人）
○令和3年度末	571人（目標数 520人）
○令和4年度末	734人（目標数 770人）
○令和5年度末	1,107人（目標数 990人）
○令和6年度	1,220人（目標数 1,290人）

<令和6年10月17日現在>

- ◆町内企業より参加の協議があり、令和6年2月から236人が参加
- ◆保険別の内訳は、国民健康保険・後期高齢者医療が約4割、
その他が約6割の構成

健幸アンバサダー（※）養成

- 令和4年度 44人
- 令和5年度 39人
- ◆令和7年度に100人の養成を目指す。【湯梨浜町第4次総合計画 重要目標成果指標】

※家族や友人など、身近な人へ「口コミ」で健康情報を伝達するボランティア。地域におけるヘルスリテラシーの向上を目指す。





“歩くこと”から始める健康づくり ゆりはまヘルシーくらぶ

事業の概要

食と健康のまちづくりに関する協定を基に、運動面の取り組みとして平成31年1月にスタート。身近なウォーキングから運動習慣の定着を目指す。ポイント付与によるインセンティブも設け、楽しみながらできる健康づくりを推進。令和2年4月からは広域連携を開始。

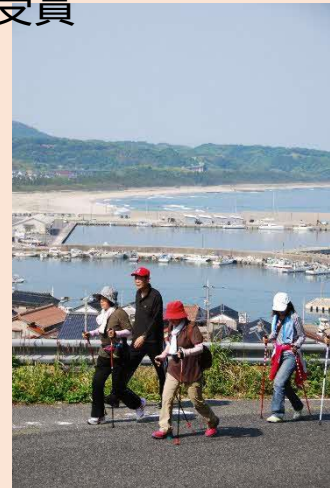
食の健康支援

町内飲食店の協力のもと、(株)タニタ監修を受けたオリジナルメニューを開発・提供。低カロリーや減塩などに配慮した健康メニューを現在4店舗で展開中。



【ウォーキング関連】

- コース整備 (以下含む8コース)
 - 東郷湖を巡る道
 - …全日本ノルディック・ウォーク連盟公認第1号コース
 - 神話と歴史の道
 - …韓国済州オルレとの友情の道協定コース
- イベント
 - 天女ウォーク
 - …10月24日(てん・によ)に合わせて開催
 - ONSEN gastroノミー
 - …2022年表彰でグランプリ受賞
- その他
 - ノルディックウォーキング教室
 - ナイトハイクなど
 - …商工会やNPO法人による事業を含め、年間で延べ60日を超える催しを実施





湯梨浜町発祥スポーツ

グラウンド・ゴルフ



誕生

昭和57年 旧泊村において、国の「高齢者スポーツ活動推進指定市町村設置事業」を受け、高齢者の健康増進を目的とした新スポーツの開発研究を開始。

昭和58年 泊村、鳥取県、日本の各グラウンド・ゴルフ協会が相次いで発足し、その後瞬く間に全国に普及。

普及

発祥地としての全国大会のほか、スポーツへの志向性の高まりを目指し、小学生を対象にしたジュニア大会を開催。

現在では、国内全ての都道府県にグラウンド・ゴルフ協会設置、国内愛好者数300万人を超える国民的スポーツへと発展。

本町はワールドマスターズゲームズ関西の開催地としても予定。

【世界に広める取り組みも】

- 海外での普及活動
- 国際大会の開催
- 国際グラウンド・ゴルフ連盟設立
- 潮風の丘とまりの整備
案内看板の多言語化、Wi-Fi整備など
- ルール動画の制作
英語、韓国語など20か国語以上を制作
- 用具販売・提供
愛好者からクラブを収集、各国に提供
- 「スポまち！長官表彰2021」受賞
国際化などに関する取り組みが評価





健康づくり・スポーツ活動支援拠点 湯梨浜みんなのげんき館

誕生

令和4年4月開設。老朽化していた公民館施設の建て替えにあわせて、館内にトレーニング設備を導入。公民館機能を併せ持つ施設として、生涯学習と地域活性の拠点に位置付け。運動指導員を配置し、各種運動プログラムを実施中。

普及

中学生以上を対象とした「ゆりはまげんきクラブ(会員制)」を導入し、トレーニング機器を活用した運動・スポーツの習慣化と健康増進を目指す。トレーニングルーム使用料は免除。機器と連動するスマートバンドを配布、自身の運動プログラムや運動履歴などの確認が可能なシステムを導入。

年間利用者の推移


(令和6年10月1日現在)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
年間利用者(人)	4,233	5,455	3,225
一日平均利用者数(人)	14.7	17.7	20.4

【運動プログラムの例】

- 運動教室(ストレッチなど)
- トレーニングマシン教室
- スタジオプログラム
ヨガ、ピラティスなどのLIVE動画教室
- 区・事業向け出前講座





児童が健康づくりの伝道師に キッズ健幸アンバサダー

事業の概要

スポーツ庁「運動・スポーツ習慣化促進事業」の活用事業で、子どもが授業体験を通じ、父母や祖父母に運動やスポーツの重要性を伝えることで住民全体の健康づくりにつなげる試み。有識者やオリンピックが講師として授業を行い、児童から親世代などへの情報伝達により、スポーツ実施率を向上させる。

効果など

講師が直接スポーツの楽しさを伝えることで、運動が苦手な児童のスポーツ開始、その家族等への波及が期待できる。一過性のイベントとせず、授業実施後もアンケート調査などの取り組みを継続し、日々の生活における継続的なスポーツ実施を目指す。

【町内小学校で授業体験】

- 令和4年度は泊小学校・東郷小学校で、令和5年度は羽合小学校で実施。体験児童の約450名に認定証を交付。
- オリンピック（陸上）、パラリンピアン（車いすラグビー）を招致し、走り方の指導や車いすの実技指導を実施。児童の興味・関心を高めるとともに、その感動を相手に伝える方法を学習。
- 活動日記により、地域の高齢者や家族への働きかけを促進。



ご清聴ありがとうございました

